

ASEAN 日系中小企業技術支援の初の現地拠点 東京都立産業技術研究センターバンコク支所開所

シンガポール事務所

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（都産技研）バンコク支所開所式が4月24日バンコク市内で開催されました。

（参考 HP：<https://www.iri-tokyo.jp/tiri-bb/index.html>）

タイでは日系中小企業の工場が多数進出し、自動車や電気・電子分野においてサプライチェーンを形成しながら日本とタイの経済発展に貢献してきました。

昨今ではアジア製造業における国際競争が激化しており、日系中小企業が生産性向上や活動領域の拡大などに迫られていることを背景に、企業が抱える多様な技術的課題にいかに対応していくかという問題があります。都産技研ではこうした状況を受けて、ASEAN 地域に展開する日系中小企業への技術支援を行うため、多くの工場が進出するタイに初の海外拠点となるバンコク支所を開設し、4月から業務を開始しました。

バンコク支所では所長と2名の研究員が常駐し、日系中小企業の品質問題・工程改善などの技術相談、現地工場での品質改善アドバイス、規格・輸出規制等の情報提供、技術セミナーの開催などを行います。専用回線でのテレビ会議を通じて本部の研究員とも連携できる体制にあります。

全国各地に設置されている公設試験研究機関の中でも都産技研本部は人員や試験設備において最大規模を誇っており、東京都外の企業に対しても支援を行っています。同様に、バンコク支所でも東京都だけでなく全国からの進出企業に同様のサービスを行っていきます。

自治体が持てる資産を活用して日本全体の発展を支える活動を国外において行う、そのような動きを東京都が先陣を切って始めたと言ったことができるのではないのでしょうか。「他の自治体関係機関が他の地域で同様に自治体の枠を越えた支援拠点を作ることがあれば、自治体どうし連携して国の発展を支えていくことを考えるのは自然なことではないか」開所式の後で都産技研のある職員の方がそのように話され、シンと来るものがありました。

（岩井次長 福岡県派遣）